



# MAEBASHI FOCUS

## 国際交流員 (CIR) ニュースレター

今回は、私の日系二世の祖父が生まれ育った場所、モロカイ島をご紹介します。オアフ島から飛行機で30分という近い距離なのに、「こんなにも街並みが違うんだ」と思わせるほど、モロカイ島は田舎で、人口も約7300人程です。高層ビルやショッピングモールはもちろん、信号すらないこの島の魅力は、人々の目を自然の風景に向けさせてくれるところです。人がどこにも見当たらない夕焼けのパポハクビーチや、歴史深く、かつ息を呑むほど美しい絶景を誇るカラウパ国立歴史公園など、一部のハワイ旅行者しか足を踏み入れていないであろう観光スポットがたくさんあります。そして、オアフ島に比べて時間がゆっくり流れていき、その落ち着いた空気が心と体を癒してくれます。



釣りや狩りをするモロカイ住民の多くは、その土地で採れるものを食べるのが主流です。つまり、現代的なオアフ島と違い、モロカイ島はハワイの昔からの生活様式が垣間見える島です。私の家族も、待ち網漁や鹿狩りの習慣が代々受け継がれてきました。大変な準備をして山の奥で鹿を仕留め、その肉を数ヶ月後に食べるというプロセスが、「いただきます」の感謝の気持ちや、命と食の大切さを教えてくれました。また、鹿の増加により、森林や農作物への被害が課題になっている今、生態系における人間の役割や自然との共生、環境保護対策などについても考えさせてくれるのです。ぜひ、ハワイ旅行はモロカイ島に行ってみてください。

